

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3890100120
法人名	社会福祉法人 ともの家
事業所名	溝辺ともの家
所在地	松山市溝辺町甲119-1
自己評価作成日	平成28年7月20日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成28年8月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者に関わる時間を多く持ち、共に楽しみを共有し、一日に一つでも多くの笑顔を見られるように努めている。外出の機会を多く持てるように工夫し、楽しみを増やせるように努めている。今後も、家族や関係者との連携を密に図りながら、利用者の生活が支援できる取り組みを行う。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

生け花の先生が毎週こられ、玄関や居間にお花を生けてくれている。玄関は網戸にしており、風が通っていた。車椅子用のリフトを設置している。居間からウッドデッキにつながっており、出ると畑が見える。廊下には二人掛けのベンチを配置しており、個々に好きな所でくつろいでいる。午前中、全員でラジオ体操を行っており、調査訪問時には利用者と職員と一緒に「ふるさと」等を歌っていた。
 昨年12月の避難訓練の際には、防災頭巾をかぶり職員は非常食や水を入れたリュックを背負い、避難場所になっている近くの八白公園まで、車イスと徒歩で避難した。生け花ボランティアの方の参加、協力があつた。
 トイレには便所と大きく表示している。トイレの背もたれには毛布を付けて、背中に違和感がないように工夫している。壁には扇風機をつけている。排泄用品を自分で始末する方に、汚物入れを用意している。便器横には、L字手すりと両側に跳ね上げ式の手すりを設置している。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 溝辺ともの家

(ユニット名)

記入者(管理者)

氏名

古川 晃

評価完了日

平成 28 年 7 月 20 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有 して実践につなげている	(自己評価) 「いかに障害が重くとも尊厳ある生活を保証する」の理念に 基づき 本人の状態を把握しながら、QOLの向上に努めている。	
			(外部評価) 法人の理念や方針を事業所理念・方針として掲げており、利 用者が手書きした理念を掲示していた。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に 交流している	(自己評価) 近所のお店(スーパー、理髪店)などを利用しながら交流を 図っている。また、地域の行事(夏祭りなど)へ積極的に参加 し少しでも交流ができるように努める。	
			(外部評価) 隣のスーパーの方と顔なじみになっており、利用者に声をか けてくれる。紙芝居や楽器演奏のボランティアの訪問があ る。又、長年生け花ボランティアの方の訪問があり、行事時 にも協力してくれている。今春から地域の方を対象にした法 人主催の介護予防教室「青い鳥健康教室」を定期的に開催 しており、職員も講師を務めている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向 けて活かしている	(自己評価) 地域への外出を行うとともに、社会への関わりを持てるよう に努める。また、事業所主催の「青い鳥健康教室」を実施し、 地域の方に向け、介護予防の教室を開催している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>利用者の現況報告・活動報告などを行っている。また、困難事例についての助言等を聞き、実践に生かしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>昨年度は、会議開催が遅れがちになり、日程が定まらないため家族への案内ができなかった。今年度は、計画的な会議実施を目指して日程を固定化しており、家族には文書で案内したり、面会時にも声をかけているが参加に至っていない。地域から民生委員と生け花ボランティアの方の参加があり、地域行事の情報を教えてくれたり、地域との交流についてアドバイスしてくれている。</p>	
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>運営推進会議に参加して頂き、介護保険に関する情報や、利用者に関する相談など、協力してもらえる体制づくりに努めている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>運営推進会議時には、地域との関係づくりについてアドバイスがあった。中学生の体験学習を年1回受け入れている。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>家族、主治医と相談し、やむを得ない理由がある時のみ、家族に同意書を得て一時的に拘束する場合がある。原則的には身体拘束0を目指している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>毎月行っている法人内研修で、年1回「身体拘束」をテーマにして勉強する機会がある。又、事業所内の職員会でも随時勉強している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価)	事業所内で話し合いの場を設け、職員の意識向上に努めている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価)	研修会にて制度についての知識を深めている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価)	十分に説明し、理解してもらっている。また、疑問点が生じた場合には、その都度対応できるように努めている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価)	面会時には必ず意見を求め、少しでも利用者や家族の意向が反映できるように努めている。また、面会に来られない家族に対しては電話にて近況報告するとともに、意向の確認を行っている。必要時には話し合いを持ち、対処するように努めている。	
			(外部評価)		
				月1回、個々の担当職員が暮らしぶりを手紙にして送付している。家族来訪時に意見や要望を聞いているが、「お任せします」と言う家族が多く、現在、意見は少な目である。敬老会やクリスマス会等には家族にも案内しており、ひ孫さんがパイオリンを弾いてくれたことがある。家族来訪時には、他利用者にも話しかけてくれる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			事業所の職員会議で上がった意見を毎月の管理者会議を通じて反映出来るように努めている。	
			(外部評価)	
			「テーブルの高さが合わず食事が摂りにくくなっているのではないか」という職員の気付きから、高さの違うテーブルを複数用意して試したところ、自分に合った高さのテーブルが見つかり、自ら食事をするようになったような事例がある。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			職員との面談を行うことで、職員の状況を把握し、働きやすい環境作りに努めている。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			法人内にて研修会を実施し、職員の自己研鑽を求めるとともに、技術の向上を目指している。また、施設外の研修を促し、自主的に学習する機会を作っている。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			全国組織のシンポジウムに参加したり、他施設との交流を図ることで、意見交換、講義を聞き、質の向上を目指している。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			アセスメントを行い、本人、家族との連携を密にすることで、安心して生活できる環境作りに努めている。様子観察し、早めの対応をし、信頼関係を作ることを目指している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所する前に話し合いを持ち、今までの経過や今後の要望などをしっかり把握する。本人・家族の不安の軽減に努め、信頼関係が築けるよう努めている。	
			(自己評価)	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族との話し合いを密に行いながら、必要としている支援内容をしっかりと把握し、不安なく生活できる支援に努めている。	
			(自己評価)	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活する中で、協力し合える関係作りに心掛けている。	
			(自己評価)	
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と協力し合い、本人を支えていける支援を行っている。家族の思いを受け止め、本人と家族の良好な関係が保てるよう、家族の思いに沿った支援を心掛けている。	
			(自己評価)	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	高齢となり、身体的には交流する機会が少ないため、懐かしい人や場所の話題作りをすることで、タイムスリップできる。また、家族の協力により、自宅で外泊したり、楽しい思い出作りを支援している。	
			(外部評価)	以前住んでいたところの景色と事業所周辺の景色が似ていることから、季節の変化や山々を見ながら散歩に出られるよう支援しているケースがある。散歩中、本人は子供の頃の話の良くなるようだ。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 常にリビングで過ごし、相性の良い利用者同士が隣に座れるように座席の位置を工夫したり、他の方と上手く関われない方はレクリエーションなどを通して、関わりが持てるようにしている。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 事業所が発行している広報紙の配布や夏祭りなど行事のお知らせを通じ、関係の維持に努めている。利用者が亡くなった後も様子を見に立ち寄って下さるご家族もいる。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人、ご家族との話し合いを通し、常に本人の思いが日常生活に活かせるように努めている。また、日常生活の中で本人の希望や意向が確認できるよう本人に問い掛ける機会を多く持つようにしている。 (外部評価) 入居時に「アセスメントチェックシート」で、日常生活動作等について情報収集している。日々の介護記録には、本人の言葉をそのまま書き込んだ記録が多くみられた。新しくアセスメント様式を作っており、今までの人生や趣味・趣向等を家族に記入してもらおう計画がある。	新たに得た情報を介護計画に採り入れて、利用者個々の意向に沿った支援に取り組んでほしい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人・家族への聴き取りを行いながら、生活史を把握できるように努めている。また、新しく得た情報は記録に残し、申し送りなどで職員全員が情報を把握できるようにしている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 些細な変化や気付きを職員間で報告し合い、状況に応じて、その都度、利用者に合わせて支援が提供できるように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>カンファレンスを行い、本人・家族の意見や要望を把握し、計画の作成に活かしている。また、変化が生じた場合には職員間で情報を共有し、計画の見直しに繋げている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>介護計画は、本人のできること・できそうなことを採り入れるようにしている。例えば「トイレで立位をとる」「タオルたたみ」を採り入れているケースでは、初めはうまくできなかった方も、職員がかかわることで自分でできるようになっている。月1回、利用者個々のケアについて話し合っモニタリングを行い、介護計画は半年ごと、又は、状態変化時に見直しを行っている。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>日々の経過を個別記録に記入し、申し送りなどを通して情報の共有、計画の見直しに努めている。職員同士が意見を出し合い、よりよい介護計画に繋がるよう努めている。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>状態に応じ、事業所が柔軟に対応していくことで、本人・家族の意向に沿った支援に取り組んでいる。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>近隣に出かけ、地域の情報が得られるよう取り組んでいる。買い物、理美容に近所の店を利用し、近隣住民との関係性作りに努めている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>主治医を決定するのは、あくまでも本人・家族であり、家族の希望に沿った主治医と連携を取っている。緊急時や相談時には、主治医への連絡をすることで、本人や家族が望む医療を受けられるよう努めている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>昨年11月の運営推進会議時に、歯科医師を招き口腔ケア等の研修会を行った。その際には、利用者全員が歯科検診を受けている。骨折で入院した利用者について、早期退院できるよう支援した事例がある。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>常に連携を取っている。利用者の状況については、主治医や病院と連携し、情報を得ている。また、事業所の看護師に少しの変化でも相談し、助言、指導を受けながら、職員同士で連携を取っている。</p>	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>(自己評価)</p> <p>利用者が入院した際には、病院との連携を密にとり、退院に合わせた話し合いを行っている。退院カンファレンスには、主治医同席の上、退院後の協力をお願いしている。</p>	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>主治医と利用者家族とのカンファレンスを早急に行い、方向性を確認している。家族や本人の意向を確認した上で、ケアプランを変更・作成し、意向に応じたケアができるよう努めている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>入居時、家族に看取り支援についての意向を聞いている。現在、利用者全員の希望は聞けていないが、2名の方は「事業所で最期まで」と希望がある。管理者は、最期は家族と一緒に過ごせるよう支援することを大切に考えており、家族の協力を得て支援したいと話していた。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価)	
			利用者の予測できる急変時については、連絡方法や手順が理解できている。救急時の応急手当については、各自勉強会等を通じて学習している。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価)	
			年2回の避難訓練を行い、日中時と夜間時の対応について訓練をしている。地震の対応、火災の対応については、消防職員による講話を依頼し、指導を受けている。地域の協力については運営推進会議で緊急時の要請を伝えている。	
			(外部評価)	
			昨年12月の避難訓練の際には、防災頭巾をかぶり職員は非常食や水を入れたリュックを背負い、避難場所になっている近くの八白公園まで、車イスと徒歩で避難した。生け花ボランティアの方の参加、協力があった。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価)	
			丁寧かつ、優しい言葉遣い、言葉掛けを意識し、言葉の乱れが目立つ時は、職員同士で注意し合うように指導している。	
			(外部評価)	
			玄関を入ったところに絵や書道、俳句、陶器のお皿等、利用者の作品を飾っている。早起きの方には、皆より早めに朝食を準備する等、本人のペースに合わせて支援している。朝食は、パン、又は、ご飯を選べるよう用意している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価)	
			常に本人の意向や家族の意向をお聴きしながら、生活してもらおう努めている。難しい要望もあるが、なるべく応えられるよう努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 起床の時間から、その人その人で違っている。無理に起こすのではなく、本人の意向を優先している。食事だけでなく、おやつに関しても、時間は本人のペースに任している。また、入浴や行事についても、本人の意向に沿って行っている。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 選択の可能な方はどれを着たいかを確認し、その人に合った格好をもらっている。整髪やカラー、カットについては、本人と相談し、近所の理髪店に依頼している。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 野菜切りを手伝ってもらっている。 以前と比べ、能力的にもできることが少なくなっているが、こちらからの働きかけで機会を増やしていきたい。 (外部評価) 昼食のおかず・夕食の主菜は、法人の厨房から届くようになっている。日曜日は、利用者の希望のメニューを採り入れている。利用者の食事用エプロンは、首に接する部分がタオル地で、職員手作りのものを使用している。食事は、自分で食べられるところまで見守り、その後介助して支援している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 各利用者の状態や、調子によって個々に応じた支援を行っている。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、必ず口腔ケアを行っている。義歯を洗浄し、口腔内のうがい、自歯磨きを徹底している。うがいが困難な利用者には、口腔内ウェットシートやスポンジブラシを使用し、口腔ケアを行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	
			トイレ誘導表を活用し、トイレでの排泄ができるよう適宜、トイレにお連れしている。排泄後、必ず清拭や陰部洗浄を行い清潔の保持に努めている。	
			(外部評価)	
			トイレには便所と大きく表示している。トイレの背もたれには毛布を付けて、背中に違和感がないように工夫している。壁には扇風機をつけている。排泄用品を自分で始末する方に、汚物入れを用意している。便器横には、L字手すりと両側に跳ね上げ式の手すりを設置している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価)	
			以前は浣腸や下剤をよく使っていたが、現在では使うことも少なくなっている。漢方薬は服用している方もいるが、下剤、浣腸まで使うことは少なくなっている。	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	
			ある程度は計画しているが、その時の本人の状態や気分により柔軟に対応している。入浴にて、清潔維持ができ、心地よい気分が味わえるよう工夫している。	
			(外部評価)	
			利用者個々に週2～3日、午後2時頃からが入浴時間となっている。浴槽をまたぐことが難しい方は、シャワー浴を支援している。冬場は、湯船にお湯をたっぷり張り、暖房を付けて支援している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)	
			個々の状態により、柔軟に対応できている。常に、本人の状態把握ができるよう努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬状況については、常に職員が理解できるようケース記録、及び各保管袋に添付している。業務日誌や毎日の申し送りの中で、服薬の変更、本人の状態について確認している。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 家事などそれぞれ得意分野で活躍してもらえる場を設けている。ウッドデッキを利用して、ティータイムを楽しんだり、レクレーションの充実に努めている。週1回の生け花教室を皆さん心待ちにしている。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 法人全体の遠足だけでなく、最低月に1回は事業所単独での外出行事ができるよう計画・実施している。家族やボランティアの協力にて、外食・ドライブなど楽しい思い出作りを努めている。また、散歩や日光浴は日常的に行っている。	
			(外部評価) 隣のスーパーへ買い物に行ったり、ウッドデッキに出て外気にふれるような時間を日常的に作っている。お花見、いちご狩り等の計画的な外出は利用者の楽しみになっており、家族来訪時に本人から家族に報告するようなこともある。管理者は「外出が事業所の特色になるように支援をしていきたい」と話していた。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金に関しての執着心が強い利用者もおられ、所持することは困難であるが、外出時などでは、楽しみのために使うことを説明し、理解してもらっている。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族への電話については、要望あれば応じている。また、近況報告するための葉書や年賀状など、知人や家族との関わりが継続できる支援を行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>音楽を流したり、季節の花を飾ったりすることで、居心地よく過ごしてもらえるよう工夫している。職員一人一人が温度や湿度に気を配り、過ごしやすい環境作りに努めている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>生け花の先生が毎週こられ、玄関や居間にお花を生けてくれている。玄関は網戸にしており、風が通っていた。車椅子用のリフトを設置している。廊下には二人掛けのベンチを配置しており、個々に好きな所でくつろいでいる。午前中、全員でラジオ体操を行っており、調査訪問時には利用者と職員と一緒に「ふるさと」等を歌っていた。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>ソファで横になったり、気の合う者同士で並んで座ったり、ウッドデッキでティータイムを楽しんだり好きな場所で好きな時間が過ごせるように工夫している。</p>	
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>車椅子利用者が多いので、出入りしやすい配置にしている。仏壇を置いたり、馴染みのタンスを使っている利用者もいる。また、重度化している利用者の居室には、思い出の写真を飾り、常に家族の顔が見えるように工夫している。両親・妻の遺影を掛けている男性もいる。</p> <p>(外部評価)</p> <p>畳敷きの居室でベッドが備え付けてある。タンスやテレビを自宅から持ち込んでいる方がいる。居室の掃除は、週2回程度行っており、家族も協力している。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>安全に生活できるように環境整備に努めている。状態を見ながら椅子の高さを調整したり、交換してスムーズに立ち上がれるよう工夫している。</p>	